

令和6年度第2回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

■開催日時・場所

令和7年3月12日（水）午前10時00分から午前11時30分まで
防府市文化センター（防府市役所本館8階）

■次第

- 1 令和7年度農林業に関する当初予算の概要について
- 2 防府市の農林業の活性化に向けての意見交換

■配布資料

	資料名
1	令和7年度防府市農林業に関する当初予算（案）の概要
2	令和7年度当初予算（案）の概要

■委員等出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	防府市長	出席
農林業関係団体	石丸 和美	山口県農業協同組合防府とくち統括本部本部長	出席
	渡邊 浩信	山口県中央森林組合 組合長	出席
	藤井 伸昌	防府市農業委員会 会長	出席
農業関係者	岡本 拓実	(株)ファーム大道 代表取締役社長	欠席
	池田 英雄	畜産	出席
	安村 真喜	施設野菜	欠席
農林業の知と技の拠点	笹井 雅之	山口県農林総合技術センター 企画戦略部 部長	出席
やまぐち農林振興公社	沖 敏雄	担い手・新事業支援部 部長	出席
商工業団体	松田 和彦	防府商工会議所 専務理事	出席
流通関係団体	松原 正範	株式会社丸久 執行役員青果部長	欠席
観光関係団体	中谷 泰	防府観光コンベンション協会 会長	欠席
消費者	阿部 幹恵	防府市生活改善実行グループ連絡協議会 会長	出席
公募	熊安 悦子		出席
	五島 淑子		欠席

■会議録

1 令和7年度農林業に関する当初予算の概要について

事務局から資料にて説明

2 各委員による意見

会長 | 委員の皆さんから御意見・御提案をいただきたい。

A委員 | 市に要望していたジャンボタニシ防除対策事業について、早速新年度予算に計上していただきありがたい。この事業についてはJAが主体となってモデル地区を選択し、市と連携して効果を検証しながら進めていきたいと考えている。

会長 | ジャンボタニシについては、懇話会をはじめいろいろなところで御意見をいただいている。来年度から事業を始めてみて、どういった方法が効果的なのかなど、2地区をモデルに事業として取り組みたい。

B委員 | 2050年の森づくりプロジェクトをはじめとする色々なイベントで山口中央森林組合もお手伝いさせてもらっている。その中での気づきとして、2050年の森の表示看板や大平山産木材を使用した遊具の説明表示などをしてみてはどうか。また、植樹イベントで植樹した場所に植樹年度や樹種を表示すれば、参加者がまた来ようと思うきっかけとなるのではないかな。
防府市では木製の遊具やベンチなども作られて地域木材の利用を推進されており、これら全体をまとめて発信できれば市や林業のPRになるのではないかな。

会長 | 植樹場所等への大きな木の看板を設置できれば良いと考えている。大平山には令和6年度から8年度までにかけて木製遊具を整備し、海のメバル公園、丘の競輪パーク、そして大平山は遊具や植樹林などをひとつのエリアとして「山の何々」という風に発信できたらいいなと考えている。

C委員 | 耕作放棄地等が地域農業の大きな問題となっており、新年度予算の未来へつなぐ土地利用型農業推進プロジェクトについては、いち早く進めていただきたい。また、商工会議所も、農林業の知と技の拠点などと一緒に協力させていただき、農産物の商品化や6次産業化といった面で連携して取り組んでいきたいと思う。
潮彩エリアの活性化事業については、青果市場機能を集約させて1次産業の拠点とすることで、物流の効率化につながると思う。物流業界では2024年問題や430休憩の問題など、いかに輸送の効率を上げてドライバーの負担を減らすかということが課題となっている。国道2号へのアクセス道路の開通や富海拡幅などで潮彩市場エリアは交通の利便性が良い場所であるため、この事業についても早く進めてほしい。

会長

メバル公園周辺について、県の緑地整備も令和7年度に完成する予定で、一帯が変わってきている。新年度には国道2号の富海拡幅や県の環状線も完成するため非常に交通アクセスのよい場所になる。そこを1次産業の拠点とすることで物流の効率化を図っていけるのではないかと思います。

D委員

畜産農家にとって飼料高騰は頭を悩ませる問題であり、3年前がピークだった。現在は多少落ち着いており、赤字額は当時の1/3くらいに減っているが、酪農、畜産農家にとっては苦しい状況が続いている。

山口県の事業で生産コスト高騰対策として、牛1頭につき1万円を補助されるという話を聞いている。これに合わせて市でも別の項目でも良いので事業を検討していただけると助かる。

防府市には、酪農関係の施設整備の補助事業があるが、これは堆肥活用に係るものなので、他の用途に使うことができない。例えば、酪農に必要な搾乳機等について、新規導入する際には畜産クラスター事業というものがあるが、こういった機械の修繕や更新に利用できる補助制度があると酪農家としては助かる。

飼料に関しては、ファーム大道を中心に安定的に品質の良い稲のWC Sが供給されるようになってきている。また、トウモロコシサイレージにも取り組まれており、こちらは防府酪農協同組合の粗飼料部会を通して畜産クラスター事業を活用した規模拡大を図っている。

現実として畜産農家には厳しい面もあるが、頑張っていきたいと考えている。

会長

円安で、輸入飼料等が高騰しているのだと思う。

搾乳機などについても、色々な制度について研究し、国や県の補助についても、色々知恵を絞って、どのようなものが活用できるかといったことを検討させていただきたいと思う。

E委員

拠点の取組として、「新技術開発」「担い手育成」「県民との連携交流」を3本柱に掲げており、防府市とは主に「担い手育成」の分野で連携して取り組んでいる。

今年度は26人の農大卒業生が関連企業などに就職し、その中には防府市内の農業法人や防府市農業公社への就農が決まった人もいる。就農ガイダンス等を通じ、皆様にご協力をいただいた結果だと思っている。

ただ、農大の学生が年々減っているという大きな課題もあり、県内の高校や市町と連携しながら、新たな学生の掘り起こしを行っている。

防府市でも、やまぐち農林振興公社と連携されて県内外の方に向けたプロモーションをやっておられるが、そういった情報発信がこれからは必要になってくると思う。

それと、6次産業化の取組みを進めるため、拠点のオープンラボでは食品加工の機器を使えるようにしており、アドバイスをしたり相談を受けたりする専門の技術者もいるの

で、それらも活用していただきたい。

最後に少しPRですが、知と技の拠点の取組について防府市青少年科学館においてパネル展示等の企画展を開催していますので、よろしければ皆さんもお越しください。

会長

ありがとうございます。青少年科学館で企画展があるとのことで、またしっかりと見させていただきたいと思う。

農大の卒業生については、土地利用学科から初めての卒業生が出て、防府市内の法人などにも就業され大変うれしく思っている。今後、農大を卒業したらどのように将来につながっていくのかといったことをしっかりとPRして、それが地域農業の活性化につながるようにしっかりとやっていきたいと思う。

F 委員

農大の学生が減っているという話があったが、山口県内における就農相談件数についても減少している。先日、県内の有効求人倍率が全国で上位であるというニュースを見たが、一般的な有効求人倍率が高いと1次産業への就業は厳しくなる傾向にある。

農業の担い手確保に当たり、東京のふるさと回帰支援センターなどで就農と移住をセットにしたPRを行うことが必要なのではないかな。

また、国において、元自衛官を就農のターゲットにするという話がある。防府市にも自衛隊があり、除隊後の選択肢として農業を検討してもらえる環境なのではないかな。

もう一つ、農大の社会人研修室が行っている「短期入門研修」に農林振興公社の行っている「就農ゆめツアー」を結び付けて同時に行いたいと思う。

新年度に新規就農の円滑化推進会議の場でも説明させていただくが、そのような事業の計画があるということを情報提供とPRさせていただいた。

会長

東京のふるさと回帰支援センターには年に何度も足を運んでおり、効果的に防府市をPRできるよう知恵を絞って頑張っている。

自衛官についてですが、防府市にある教育隊の教官などをリタイヤした人達や任期制自衛官の任期終了後の就農についてPRが必要と思う。

現在、農業だけでなく様々な分野で人手不足と言われている。県や農業公社、農林振興公社と一緒に担い手の確保にしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

G 委員

市長をはじめ、ほかの委員さんからの意見からも農業公社への期待を感じている。農業公社はこれまで農作業の受託や農地の保全管理を中心に行い、一定の成果を出してきたつもりである。それに加えて、昨年、県とやまぐち農林振興公社と連携協定を締結し、担い手育成に取り組み始めた。

遊休農地の解消と遊休農地を活用した担い手育成として、昨年からは遊休農地を預かって耕作を始めた。さらに、先ほど市長から説明のあったように、学校給食におけるお米を地産地消で全量農業公社に何とかしてほしいとのことで、私としてもそれができればという思いを持っている。

しかしながら、学校の給食のお米を賄うためには約 100 トンが必要で、それには約 20ha の農地が必要となる。現在、防府市の遊休農地は約 100ha あり、その半分の 50ha がすぐに耕作可能な農地と考えられるため、数値上、遊休農地の量としては十分に可能と思われるが、耕作適地かどうかといった条件を考えると、この 50ha のうち 20ha を確保するというのはかなりハードルが高いと思っている。

人員については、来年度は農大卒業生を含め 2 名の研修生が水稻栽培の作業を行う。これからも、農林業の知と技の拠点などと連携して少しでも多くの人員を採用し、期待に応えられるような組織にしていきたいと考えていますので、長い目で見ていただき、御協力をお願いできればと思う。

会長

防府市に農業公社があつてよかったと思われるよう、市としても頑張りたいと思う。現在、国において地方創生が叫ばれている中、防府市としては農林業の知と技の拠点や農業公社があるという利点を生かして、農業施策でもって地方創生にチャレンジしていくことが必要であると考えている。防府市独自の農業施策として、耕作放棄地対策と担い手育成を一括して行う、土地利用型農業推進プロジェクトを新年度の事業のひとつの柱として掲げている。

H 委員

私は農業に興味をもってもらうための活動を行っている。自分で育てた農作物を利用したイベントや、ハーブ教室などを開いて、そこに参加された方が今度は自分でハーブなどを育ててみるといった良い循環ができればうれしいと考えている。

農業をする中で発生するマルチシートなどのごみを処分しようとしたとき、産業廃棄物としてクリーンセンターに持ち込むと 50 センチ四方に切らなくてはならないと言われた。長いシートを細かく切るのはそれだけでも大変の労力がかかるが、他の農家の方はどのようにしているだろうか。

A 委員

農業で使用するマルチシートなどの産業廃棄物については、年に 1 度か 2 度、有料にはなるが J A でまとめて業者に依頼して処分をしている。その場合には、細かく裁断する必要もないので、お近くの J A に問い合わせしてほしい。

I 委員

潮彩エリアの活性化についてお聞きしたい。メバル公園がとても人気で、駐車場がいつも満車になっているため、今後、あのエリアを活性化していく中で、駐車場の確保が必要ではないかと思う。また、現在でも周辺にトラックが停車しているのを見かけるが、青果市場と一体化したときにトラックの対応をどのようにするのかお聞きしたい。

それともう一点、市内の高校と一緒にコッペパンと防府の食材を使って、地元製品の PR をするような活動をしており、以前、防府の産物として「はもつけ」を使おうとしたが、製造している業者から継続して大量には供給できないと言われた。せっかく良いものがあるので、たくさん作られると良いなと思った。

会長

貴重なご意見、ありがとうございます。

潮彩エリアにおける駐車場についてですが、潮彩市場の西側にある駐車場が使えるようになっている。メバル公園を利用する方は小さいお子さんもいて、出来るだけ近くの駐車場に停めようとされるのだと思う。少し公園からは離れるようにはなるが、潮彩市場の裏手の駐車場も使えるので、ぜひ利用してほしい。

また、青果市場のトラックについては、おそらく子供が遊ぶような時間には出入りしないはずなので、今後青果市場が潮彩エリアに来るようであれば、水産市場等とも調整して、安全安心に利用してもらえるように考えていこうと思う。

潮彩エリアが一次産業の拠点となれば、地元製品のPRの場にもなると思いますので、その際には御協力をお願いします。

「はもつけ」につきましては、市で作るわけにもいきませんので、なかなか難しい問題ですが、コンスタントに売れば、事業者の方も生産規模を大きくされるかもしれない。

G委員

都市計画法の改正に伴い、市街化調整区域かつ災害ハザードエリアである場合の開発行為等が規制されている。それにより、地域に新たな担い手を受け入れようとしても住宅を建てることができず、子供が帰って来るにしても分家住宅の建築もできない。地域を活性化するという点でも、何らかの対策を考えてほしい。

また、都市計画法の改正に伴い問題となっているのが空き家の問題である。地域の農家住宅がどんどん空き家になっているが、これを農家住宅以外の一般住宅等で使うには用途変更が必要となり、ハザードエリアでは用途変更ができず、せっかく活用できる農家住宅があっても活用しきれない。

これらのことについて、なんらか利活用できる方法を考えていただければと思う。

会長

このことについては、都市計画法等の法律も関わってきますので、即答できませんが、全国的な課題であろうと考えている。安全性の問題等、色々あるとは思いますが、防府市にとって良い形にできるよう考えていきたいと思う。

会長

多くの意見をいただいた。本日の内容については、関係各課でしっかりと情報共有を図り、防府市の農林業の振興につなげていきたい。

閉会